

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ラ・ムー東海店	階数	地上1階
建設地	愛知県東海市名和町字細田廻間8他21筆	構造	S造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	700人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年4月 予定	評価の実施日	2024年6月7日
敷地面積	7,393 m <sup>2</sup>	作成者	笹原一馬
建築面積	2,645 m <sup>2</sup>	確認日	2024年7月5日
延床面積	2,617 m <sup>2</sup>	確認者	伊藤 公

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 75%
- ③上記+②以外の: 75%
- ④上記+: 75%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>14.5 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	14.5 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	14.5 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)ラ・ムー東海店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>													2.8
<b>Q1 室内環境</b>													3.0
<b>1 音環境</b>													3.0
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15									3.0
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40									
1 開口部遮音性能			3.0	1.00					3.0				
2 界壁遮音性能			3.0						3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0						3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0						3.0				
1.3 吸音			3.0	0.20					3.0				
<b>2 温熱環境</b>													2.6
2.1 室温制御		0.3	2.6	0.35									
1 室温		0.5	3.0	0.50									
2 外皮性能		3.0	3.0	0.50					3.0				
3 ソーン別制御性		3.0	3.0	0.17					3.0				
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.33									
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.20					3.0				
		3.0	3.0	0.30					3.0				
<b>3 光・視環境</b>													3.0
3.1 屋光利用		0.2	3.0	0.25									
1 屋光率		0.5	3.0	0.50									
2 方位別開口		3.0	3.0						3.0				
3 屋光利用設備		3.0	3.0	1.00					3.0				
3.2 グレア対策													
1 屋光制御		5.0	3.0						3.0				
3.3 照度		3.0	3.0						3.0				
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.50					3.0				
<b>4 空気質環境</b>													3.8
4.1 発生源対策		0.2	3.8	0.25									
1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50		F★★★★品を採用							
		3.0	4.0	1.00					3.0				
4.2 換気		0.3	3.5	0.30									
1 換気量		3.0	3.0	0.50					3.0				
2 自然換気性能		3.0	3.0						3.0				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	4.0	0.50		空気取り入れ口の向きに配慮			3.0				
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20									
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	3.0	0.50									
2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50		全面禁煙							
<b>Q2 サービス性能</b>													3.1
<b>1 機能性</b>													3.0
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.0	0.40									
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40									
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0						3.0				
3 バリアフリー計画		3.0	3.0	1.00									
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30									
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	5.0	0.33		売場の天井高さ3.99m			3.0				
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33									
3 内装計画		3.0	1.0	0.33									
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30									
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50									
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50									
<b>2 耐用性・信頼性</b>													3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.1	0.31									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48									
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80									
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.7	0.33									
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23		角波鋼板使用							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			5.0	0.23									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			5.0	0.15		耐用年数が長いものを使用							
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23									
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19									
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20									
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20									
3 電気設備		3.0	3.0	0.20									
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20									
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20									

<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3	
<b>3.1 空間のゆとり</b>			②	売場の天井高さ3.99m	0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					5.0	5.0	0.60	-	3.0	-	-
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	-
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					3.0	3.0	0.31	-	-	-	-
<b>3.3 設備の更新性</b>					0.3	3.0	0.38	-	-	-	-
1 空調配管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	-	2.0	0.50	-	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	-	-	3.3	
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	-	-	3.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.85	3.0	4.5	0.30	-	-	4.5	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.73	3.0	4.4	0.30	-	-	4.4	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	-	-	2.8	
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 節水					3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	2.7	
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGST下地を使用	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	-	-	3.0	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率75%	-	3.9	0.33	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮					0.3	2.6	0.33	-	-	2.6	
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	立地法指導による	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33	-	-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	1.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:14.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ラ・ムー東海店

計画上の配慮事項	
総合	建物をできる限り前面道路からセットバックした計画とした
Q1 室内環境	下地及び仕上げ材ともにシックハウス規制対象品F★★★★品を採用した
Q2 サービス性能	売場については天井高さを3990mm確保した
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により良好な景観形成に努めた
LR1 エネルギー	出来る限りLED照明を採用した
LR2 資源・マテリアル	LGS下地を採用することにより、躯体と仕上げ材を分別可能とした
LR3 敷地外環境	自転車置場等を適切に計画することにより、交通負荷抑制に努めた
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。